

5年 家庭科学習指導案

授業者 深川 朋美

1. 題材名 生活の主人公への道 ～自分らしいゆで方を探そう～

(「クッキング はじめの一步」 B「衣食住の生活」)

2. 題材の目標

- 野菜の性質(土の上で育つもの、土の中で育つもの)に合った適切な調理があることを理解するとともに、それらに係る技能を身に付ける。 [知識及び技能]
- 自分の生活における「ゆでる」場面を具体的にイメージしながら調理の仕方について問題を見出して課題を設定し、解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題解決する力を身に付ける。 [思考力、判断力、表現力等]
- 家族の一員として、生活をよりよくしようと野菜をゆでる調理の仕方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、ゆで方を工夫し、実践しようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

3. 子どもと題材

本学級の子どもは、日々の事象を素直に見つめ直し、よりよい生活を求めて工夫しようすることができる。学級での日常の些細なことに対しても「なぜだろう」という問いをもち、他者の意見を聴くことで自分の視野を広げようとする柔軟さも備えている。例えば、教師の「授業中には水筒を机の上に置かないでほしい」の願いに対して「先生はなぜそれがよいと思うのだろう」

「倒れてノートや教科書が濡れてしまったことがある」「水筒が落ちた時の音ってびっくりして心臓が止まりそうになる」「授業が中断しちゃうことにもなる」「それなら水筒の置き場は、机の横のバッグの中か、ロッカーの上にしよう」などと課題に対して対話を通して、学級の中での基礎的な環境の整え方について見つめ直す姿があった。一方で、家庭科の授業における実践的な活動においては、基礎から順に学ぶことに対してつまらないものという先入観が先立ち、事象についてその意味や意義をないがしろにする傾向も見られる。このような実態から、本学級の子どもには、基礎を学び、基礎を通ったのちに自分らしく自分に合った工夫ができることを体験的な活動を通じて感じさせ、そのことのよさを感じさせたい。今年度から家庭科の学習が始まった5年生の子どもにとって、家庭科という教科は、単に知識や技能を習得するだけでなく「できる自分からたのしい自分」を目指しながら自分らしさを発揮して、家族をはじめ様々な人と共に、自分に合った幸せをみずから切り拓く「生活の主人公」へと育っていくことを願う。「できる自分からたのしい自分」「生活の主人公」というキーワードは4月の授業開きで子どもたちと共通理解をした。

本実践では「生活の主人公への道 ～自分らしいゆで方を探そう～」という題材名を設定し、子どもたちが「ゆでる」という日常的な調理を科学的に捉え直し、自ら課題を見付けて解決に取り組み、主体的に学習していく過程を重視する。野菜の性質(土の上で育つもの、土の中で育つもの)によって「水からゆでる」か「沸騰してからゆでる」かの適切な方法があることを教科書を使って理解し、実感を伴いながら知識を得る。これは、単に手順をなぞるだけの学習ではなく、子どもたちがなぜこの手順が必要なのか、という根拠を自らの試し実験を通して発見していくためである。この手順の根拠へ丁寧に合うことが、子どもたちが軽視しがちな基礎への思いを深めることに繋げたい。また、この基礎的な学びと出合うことで「自分に合ったゆで方」つまり「生活の主人公」に繋がることを題材を通して感じさせたい。

本題材で教材として使用するほうれん草とじゃがいもは「自分に合ったゆで方」を探す子どもにとって最適な食材であると考え。例えば、2つの食材にはゆで時間によって食感が大きく変

わる特徴があり、どちらも好みに合わせた正解になり得る。ほうれん草のしゃきしゃきとした歯ごたえが好きな子は短めに、柔らかいお浸しのような食感が好きな子は長めにゆでれば良い。じゃがいもも同様で「形を残してサラダにしたい」思いや「ホクホクで少し崩してポテトサラダを作りたい」のように好みをゆで加減によって自分らしく好みに合わせて調理することができる。その他にも、これら食材は家庭での定番食材なので、子どもにとって身近で扱いやすく、学校での学習後も家庭生活の中で追究し続けられるよさもあるのではないだろうか。

4. 本題材にねがう『その子らしく学ぶ』

家庭科部では「日常生活の中の事象に改めて出合ったその子が、自分の既有的知識や生活経験をもとに事象にかかわる中で、その子なりの課題を設定し、他者や様々な事象を知る中で出合った価値観と自身の価値観を照らし合わせながら試行錯誤してその課題を解決しようとする」と家庭科における『その子らしく学ぶ』姿であると考え。本題材を通して自らの生活経験や価値観を動員して活動を行うことにより、子どもの以下のような姿が具現化すると期待する。

1つ目に期待する姿は、既有的経験と教科書で知った知識とを出合わせ、自らの問いを生み出す姿である。子どもは日常の「ゆでる」という事象に改めて向き合った際、自分の想像や経験と教科書の内容を照らし合わせるだろう。例えば、第②③時間目の試し実験において、ほうれん草の根元の赤い部分に一番栄養があるとお母さんから聞いたことがある子は、根元を切り落とさずに食べようとする。しかし、どうしても土が残ってしまう、どうすれば上手に洗うことができたのか、と悩むだろう。また、教科書で学んだ水加減が友達と違ったという気付きをもった子は、その気付きから「水の量が影響してゆで時間がかかったのかもしれない。美味しくゆでるための水の量をきっちり確かめたい」と推測するだろう。このように事象に自分なりの知識をもって関わることで、自分なりの追究課題を生み出してほしい。

2つ目に期待する姿は、多様な価値観を比較し、自分にとっての最適を選択する姿である。第④⑤時間目の「くらべる」場面を意識して、再チャレンジのための課題を設定しよう」では、子どもたちは他者の価値観と自分の価値観を激しく照らし合わせながら思考することを期待する。本校では、子どもたちが社会の中で自分らしさを発揮して、その子らしく学びながら活躍する姿を目指している。この姿を価値付け、広げていくためには、子どもが自分のよさを発揮できる環境の醸成が欠かせないと考え、教師は意図的に学び合いの場を設定する。一人ひとりの「その子らしさ」を耕すとともに、それを育て発展させるための集団での「学び合い」の時間も大切にしていきたい。例えば、ほうれん草の調理において「味や栄養、食感を守るなら教科書通りの株のままゆでるのがベストだ」と理解した上で「でも、切ってからゆでる方が自分にとっては手間がかからず楽だ。自分らしく調理し続けるなら、これからも切ってからゆでる方法を選んでもかまわない」と思考する仲間の考えに触れる。このように、単なる正解の習得ではなく、自分の生活スタイルに照らした価値判断を行っている点が「その子らしさ」を象徴しており、そこを本題材では大切にしたいと考えている。子どもが、様々な価値観があることを知り、それらをもとに比較し、今の自分にとっての最適となるゆで方を見付けてほしい。

3つ目に期待する姿は、試行錯誤を楽しみ、生活を自分で創る楽しさを感じる姿である。第②③時間目における試し実験での失敗や気付きをもとに、第④⑤時間目では本実験に向けた計画を立て、第⑥⑦時間目に課題を解決しようとする中で、最終的に「自分で生活場面をイメージしながら問題を見出して考え、解決しようと思えることは楽しい。自分らしく調理しようとしたことができた」と実感する姿は、まさに自立共生的な生活の主人公としての姿そのものであると考える。また、自分で生活を創るという営みは、自らの意志で人生を形作る当事者意識や主体性を育む過程ともいえ、たのしい自分に繋がる姿でもあると捉えたい。

5. 題材構想（全 10 時間扱い／本時は第④時）

＜教師の投げかけ＞ 子どもの表れ 最終時における子どもの表れ

① ＜野菜がゆでられるようになると、どんないいことがあるのかな。＞

・たくさんの野菜が食べやすくなる。ゆでると、かさが減るから量が少なくなったように感じる。	・食材を体に優しく食べられるようになる。温かい野菜はお腹に優しい。消化がよくなるんじゃないかな。	・栄養素もアップする。加熱して油と一緒に摂ると栄養が体の中に取り込まれやすいと聞いたことがあるよ。
--	--	---

・生野菜とゆで野菜では違いがあると初めて知った。野菜がゆでられるようになりたいな。

②③＜教科書通り野菜をゆでてみよう。どんな気付きがあるだろう。＞
試し実験

- 1：教科書から知識を得て、ゆで方を知る。
- 2：実践する。
- 3：失敗や気付きから課題を見付ける。

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・根元の土を洗うのが難しかった。包丁で切ってしまったけれど、家でお母さんから、根元に一番栄養があるって聞いたことがある。どうすればよかったのかな。お母さんに聞いてみたい。 ・ゆでてから切ったけど、切ってからゆでた方が鍋に入れやすいと思った。切ってからゆでるでは、何かが変わってしまうのかな。確かめたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科書に書いてあった「いもがかぶるくらいの水の量」が自分と友達では違った。私は水の量が多すぎたから、ゆでるのに時間がかかってしまったのかもしれない。こんなに時間がかかるんじゃないか、普段の生活では面倒だなあ。 ・じゃがいもの甘みが少なかった気がする。ゆでる時間と味には関係があるのかな。実験してみたい。 |
|--|---|

④（本時）⑤＜「くらべる」場面を意識して、自分らしくゆでるために課題を設定しよう＞

3つの「くらべる」場面

- 実際にやったからこそ気付いたこと（自分から）
- 家で家族のやり方を観察して気付いたこと（家族から）
- 友達との結果の交流により気付いたこと（友達から）

教科書通り、ほうれん草を根元から株のままゆでてみたけれど切ってからゆでるのとは食感・味が変わるのか知りたい。栄養は株のままの方があるというデータを見つけた。

家でお母さんのほうれん草のゆで方を観察してきた。なべではなく、フライパンを使って、少ない水でゆでていた。時短になることを確かめたい。

芋が甘くなかった。同じ芋なのに、沸騰後5分ゆでた友達は、ほくほくして甘いと感じたらしい。長くゆでればゆでるほど、甘みがますのかもしれない。ゆで時間を課題にしよう。

○教師の働きかけ

○題材のゴールには、ゆで野菜サラダを作ることを伝え、児童が必要感をもって学びを進められるようにしたい。

○生野菜とゆで野菜を比べて考えさせることで、野菜をゆでることのよさに話し合いの焦点をあてる。

○第④⑤時間目に、条件を変えて考えたり、仮説を立てて検証したりして課題を設定できるようにするための手立てとして、教科書の知識を学級全体の基準とすることで学びの土台を整える。

○班で見通しをもって2つの野菜をゆでられるように役割分担を決めてから実験に臨む。

○試し実験の記録が次時に繋がるため、記録の視点を事前に具体的に考え、全体で共有する。ワークシートは可視化でき、簡単に記録できるものを準備する。

○家庭での調理の様子を観察させてもらえるように、保護者への協力を仰ぐ。

○「自分らしくゆでる」とはどういうことなのか、再度考える時間を取り、共通理解をした上で、課題を設定できる場の工夫をする。

⑥⑦ <自分らしく野菜をゆでてみよう。どんな気付きがあるだろう。>
本実験

(株のままゆでる)

味◎、栄養◎、食感◎しゃきしゃき、時短△水気を絞るのが大変。

(切ってからゆでる)

味○水っぽい、栄養○切り口から栄養が逃げやすい、食感△、
時短◎火の通りが早い、鍋が小さくても大丈夫。



- ・ほうれん草そのものの味を生かしておいしく栄養満点に食べるためには、教科書通り株のままゆでるのがいいと分かった。でも、切ってからゆでるのは、自分にとって時間がかからなくて楽でよかった。自分にとって楽な方法は、自分で調理しやすいということにつながるから、自分はこれからも切ってからゆでるやり方をするのかもしれないと思う。

⑧<ゆで野菜サラダの計画を立てよう>

- ・じゃがいもタイプ（水からゆでる）のさつまいもと、ほうれん草タイプ（お湯からゆでる）のキャベツを使おう。
- ・ブロッコリーを洗う時は、ほうれん草のようにためた水を使うんじゃないかな。洗い方を調べてみよう。
- ・味付けは、オーロラソースにしよう。
- ・どのタイプか考えれば、どんな野菜でもゆでられそうだね。

⑨<ゆで野菜サラダを作って食べよう。>

- ・おいしく食べるための調理計画や調理の仕方についてよく考えられた。
- ・自分ですべて考えて調理できるって楽しいな。自分の食事についておいしさや栄養を考えて準備できるのは、生活の主人公への一歩だ。
- ・家でも、他の野菜を使って作ってみたい。

⑩<『生活の主人公への道～ゆで野菜～』をまとめよう>

- ・教科書では、ほうれん草は根元から株のままゆでると知ったけど、切ってからゆでることによる手間のかからなさは、自分にとって魅力だ。ただ、水っぽさが残ることやしゃきしゃきした感じが減ってしまうところは事実としてある。そのことはまとめの中に入れて記録に残したい。
- ・「次に家でゆでるなら…」と考えてまとめている友達がいた。授業は終わるが、これからも自分らしくゆでることは続けていきたいという思いが伝わっていいな。

- ・土の上か中か、野菜の育ち方を見れば、初めて使う野菜でもどうゆでればいいのか自分で判断できるようになった。
- ・食感や味の好みに合わせてゆで時間を工夫できるから、自分がおいしいと思える料理を自分で作れるようになった。
- ・できる自分から、少したのもしい自分になれた気がする。家でも他の野菜でどんどん試してみたい。

○本実験は、個人でほうれん草かじゃがいものどちらか1つの野菜を選んで実験を行う。ペアで見通しをもって、順番に実験する。ペアの相手が調理している際には、時間の測定や記録など協力し合えるようにする。

○試し実験と同じ項目で記録をとることで、比較してまとめ・表現できるようにする。

○ほうれん草とじゃがいもをゆでる経験をした子どもにとって、初見の野菜に対しても根拠をもってゆで方を考えられることを実感する機会にしたい。

○例外や予想外の野菜があることに気付いた子どものつぶやきを拾い補足することで、探究心を価値付けそのよさを全体に広げたい。

○題材を通してロイロノートを使って、記録や気付きを残していく。本時では自分の記録を整理し共有することで、自分や友達の学びの変容を自覚したり認めたりさせたい。